ふくふる6月0520号

福井米の品質・食味のグレードアップを目指して！

Agri Note田園

アグリ ノート米作り情報

(ハナエチゼン・コシヒカリ)

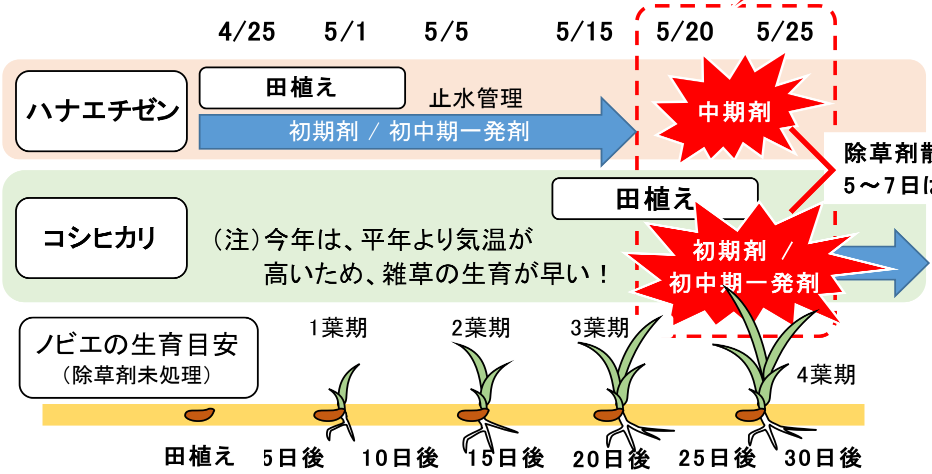
JA福井県

4月下旬から5月連休にかけての晴天、高温の影響もあり、ハナエチゼンの田植え後の初期生育は良好です。5月中旬からはコシヒカリの田植えが始まり現在は活着期にあたります。活着後は2～3cmの浅水管理を徹底し、圃場の水温・地温が上がるように努めましょう。また高温がつづくとワキの発生が懸念されます。葉色の変色や薄い場合は土中に溜まったガスを抜き、根の活性化を図りましょう。

1. 水稲除草剤の適正使用

除草効果をできるだけ長く持続させるために、除草剤散布後5～7日間は止水管理(落水・入水をしない)を行いましょう。

現在の水田に発生する雑草をしっかり把握！



中後期除草剤の選択

- ヒエや広葉雑草等の後発雑草に対して、中期・後期の除草剤を散布しましょう。
- 雑草を抑えるために適した除草剤の選択と使用を行いましょう。

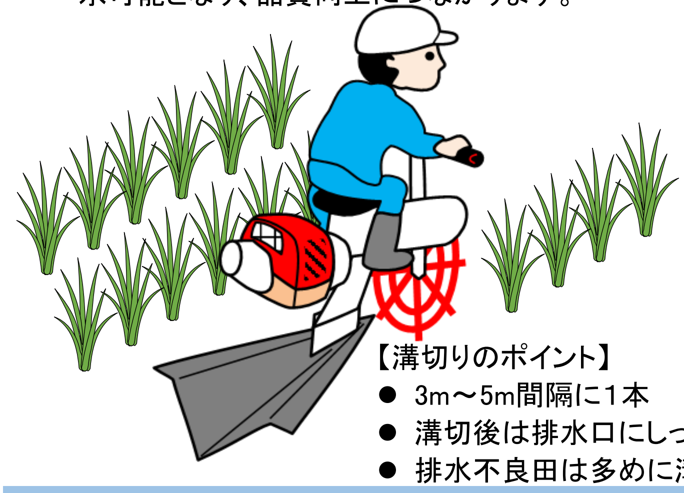
★ 除草剤のお問合せは、各支店・センターの営農指導員まで

2. 溝切りと中干しのポイント

良質米づくりと収量向上には、適正な茎数を確保することが重要です。必要茎数確保後は適期溝切りと中干し(6月上中旬頃)の実施をしましょう！

①溝切り実施(効果)

- 排水が容易になり中干しが効果的に行えます。
- 中干し後の水管理が容易で、収穫直前まで通水可能となり、品質向上につながります。

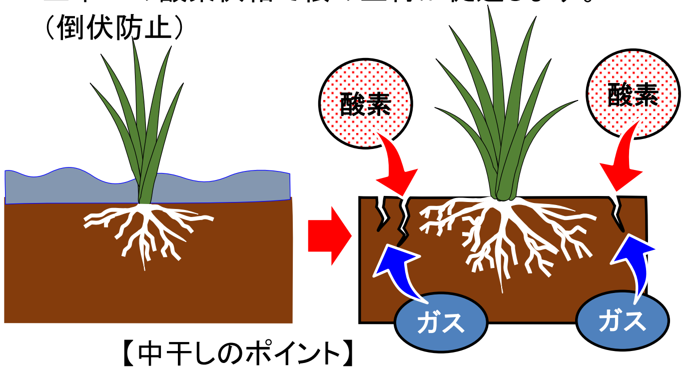


【溝切りのポイント】

- 3m～5m間隔に1本
- 溝切後は排水口にしっかり接続
- 排水不良田は多めに溝切り

②中干し実施(効果)

- 中干しで窒素の吸収を緩やかにし、過剰分げつを抑制(無効分けつの抑制)します。
- 土中への酸素供給で根の生育が促進します。(倒伏防止)



【中干しのポイント】

- 1株あたりの茎数が18～20本程度で開始
- 中干しの目安は田面にヒビが入る程度
- 砂質浅耕田や乾田では、干しすぎない

今回のアグリノート田園は、農業戦略部(営農企画課)笠原が担当しました。